

学校推薦型選抜
令和8年度 和歌山大学経済学部 学校推薦型選抜（スポーツ）
学校推薦型選抜（簿記）

小論文

出題意図・解答例

【問題1】

設問1

出題意図：

本文に沿って、賃金上昇の原因についての「真実・実体」と「錯誤」の違いについての理解を問う。「人手不足」、「労働市場」において、労働力への需要が供給を上回る状態が原因である、ことという意味の文言(=これが錯誤であること)が入っていればよい。

解答例：

ここでいう「錯覚」とは、賃上げ率が上昇したのは、「経済環境中において、人手不足が深刻化して、労働市場との関係の中で、労働力への需要が供給を上回る状態が原因である」という考え方のことを示している。(97文字)

設問2

出題意図：

本文中に示されている「賃金上昇の真の意味」を問うた。「粗利益の増加は、2022年に特有の現象」であった点に触れつつ、真の付加価値の上昇が把握できていればよい。

- ① 企業の売り上げが上昇しても、それが、輸入物価の高騰による原材料価格の高騰を「売り上げに転嫁する」形が原因ならば意味がない点（つまり2022年特有の現象）。
- ② 企業の経営努力などで、景気が良くなることで、企業規模に関係なく付加価値が増大し、
- ③ その結果、賃金が物価上昇率を上回る形で上昇すること。

などが書かれていればよい。

つまり、本文で示されているように「見せかけの売り上げ額の上昇（ではダメな点）」に依拠しつつ、「(真の意味で)付加価値が増える」こと、またその条件として「企業の経営努力」「生産性の向上」などがあり、その結果「物価上昇率を上回ること」が大事であることが書

かれていればよい。なお、企業の経営改善や努力は本文中には十分に書かれていないが、このあたりに気が付くかどうかを文脈から判断し、経済学部を受験する学生の感性として、加点の判断とする。

解答例：

企業の規模に関係なく、「例年の物価上昇分を考慮したコスト」に対し「企業の利益」が上回る状態が理想的といえよう。その結果、企業は企業努力の結果、その利益を確保しながらも労賃が適正に配分され、賃金が最終的に上昇すること。(108文字)

令和8年度 和歌山大学経済学部 学校推薦型選抜 (スポーツ)
学校推薦型選抜 (簿記)

小論文

出題意図・解答例

【問題2】

設問1

出題意図：

比較的長文を読み、筆者の考えを理解したうえで、その内容を端的にまとめることができるか、をみる。

解答例：

伝統的な経済学は経済発展を経済的富の蓄積と捉え、国内総生産(GDP)を重要な達成目標としてきた。その考えの中心には、経済学の父アダム・スミスが唱えた、個人の利己心が市場競争を通じて、見えざる手に導かれるように経済的富を増大させるという市場至上主義イデオロギーがある。(133字)

設問2

出題意図：

比較的長文を読み、筆者の考えを理解したうえで、その内容を端的にまとめることができるか、をみる。

解答例：

現代の最も重要な社会問題であるサステナビリティに関して、人が倫理的動機から利己心を超えて社会貢献や社会的責任に関与し続けることは、困難である。そこで企業が営利追求とともに社会的責任を果たせば、人は従業員として企業に参加して、自らの大義を実現できると考えられる。(130字)